

【茶】の【降灰】対策について

<通年>

農業経営支援課

(1) 予想される被害状況

- ・ 摘採葉に火山灰が混入することによる品質低下。
土壌pHの低下に伴う生育障害

(2) 事前対策

- ・ 降灰が予想される場合には、スプリンクラーによる散水を行う。

(3) 事後対策

【萌芽前】

- ・ 摘採面の茶葉に火山灰が堆積するほど降灰量が多い場合には、降灰が落ち着いてからブローヤやほうきで火山灰を払い落とした後、スプリンクラーや洗浄機等で洗い流す。特に、萌芽直前は、摘採時に火山灰が舞い上がるのを防止するため、すそ部の洗浄も徹底する。

【摘採時期】

- ・ 摘採時に火山灰が舞い上がらないように、広めにすそ刈りを行う。
- ・ 製茶工場に生葉洗浄・脱水機がない場合は、ほ場での散水による除灰を徹底し、被覆除去後の茶園の新芽に火山灰が付着していないことを確認した上で摘採する。
特に、葉の重なっている部分や樹冠内は火山灰が残りやすいので注意する。
- ・ できる限り摘採位置を上げて摘採する。
- ・ 摘採前被覆している茶園で降灰が確認された場合は、摘採前日の夕方に被覆を除去し洗浄を徹底する。
- ・ 摘採葉に周囲から火山灰が付着しないよう、運搬の際はホロ付きトラック等を利用する。
- ・ 製茶工場に生葉洗浄・脱水機を設置している製茶工場では、摘採葉を丁寧に洗浄後、火山灰が付着していないことを確認し製茶する。
特に、中揉工程の粉抜きを行い、出てきた粉を荒茶に混ぜないように取り扱う。
- ・ 摘採や整枝作業後は、作業機械（フィルターや回転軸、刈り刃等）の点検整備を行う。

【土壌改良】

大量の降灰により土壌PHが4未満に低下している茶園が確認された場合は、生育障害が危惧されるためできる限り速やかに苦土石灰等の散布と攪拌を行い、土壌の酸度矯正を行う。